

“スポーツの「カチ」を考える”

主催： 体育専門学群

日時： 1月 8日（水） オリエンテーション（1H201）

1月15日（水） 「AIの活用はスポーツをどう変える？」

1月29日（水） 「スポーツで未来をデザインする ー多様なキャリアの可能性ー」

2月 5日（水） 「『人馬共栄』 ー〈絆〉を深める馬術競技の舞台裏ー」

2月12日（水） 「ハイパフォーマンスを生み出す身体のふしぎ」

-CONCEPT-

現代において、体育・スポーツの捉え方は多様化し、新たな考え方・関わり方が次々に生まれている。そのため、これからの体育・スポーツを担う我々には、それらの変化に柔軟に対応することが求められる。さらに、これらのスピード感がある時代だからこそ、最新の知識・情報を積極的に取り入れ、それを主体的に活用していくことが大切である。

そこで本授業では、様々な体育・スポーツの場で活躍する専門家たちをお招きし、シンポジウムを開催する。“**スポーツの「カチ」を考える**”というテーマのもと、スポーツの実践の場において重要である**「勝ち」**に関すること、また、体育・スポーツがもつ多様な**「価値」**について着目する。具体的に、〈AIの技術活用〉〈体育専門学群のキャリア〉〈トップ競技の現場〉〈ハイパフォーマンスの仕組み〉の4つのテーマを設定し、これらの内容を通じて体育・スポーツの**“カチ”**を考えていく。

何か一つの「答え」を求める授業ではありません。自身のこれまでの経験と自由な発想を巡らせながら、気軽に参加してください。充実した時間を創りましょう。

企画・運営： **松井崇, 坂本拓弥**

筑波大学博士後期課程体育科学学位プログラム

新田理花子, 姜悠杏, 伊藤あかね, 河野壮登, 喜多綾音, 余浩鑫, 小池 潤,
柴田直生, 高見澤怜, 潘子恒, Cao Yue, Guo Chenxin, Lee Jaehee,
Lim Namboon, Marko Duric

筑波大学博士前期課程体育学学位プログラム

石原唯斗, 岸波拓真, 西山藍那

第1回 「AIの活用はスポーツをどう変える？」

日 時 : 2025年1月15日 12:15 - 15:00

場 所 : 1H 201 教室

シンポジスト : 角 田 憲 治 氏 (筑波大体育系准教授)

村 澤 雄 平 氏 (関彰商事株式会社)

加 藤 亮 介 氏 (筑波大体育系特任助教
ハンドボール部ヘッドコーチ)

概 要

昨今、AI や IT 技術の進化によって私たちの生活も変革しつつあるが、その波はスポーツ界にも押し寄せている。競技データの解析や、トレーニング効率の改善、選手の健康管理といった多くの分野で AI・IT を活用する機会が増え、私たちはこれらの精度をより高め、効率化することが可能になったといえる。

しかし、私たちはこのように発展していく AI 技術の情報をどれだけ理解出来ているのだろうか。正しく理解していない中でこれらに依存しても、その恩恵を十分に受けることはできず、却って人の“考える”・“行動する”力が損なわれる可能性も否定できない。私たちがこれから体育・スポーツ界で活躍を続けていく中で、AI・IT の特長を十分に享受し効果的に活用するためには、これらの知識・情報を正しく理解し、これらの問題について改めて考えることが重要だといえる。

こうした背景を踏まえ、今回では近年取り組まれてきた AI・IT の研究・開発・実践現場の最前線に触れつつ、スポーツにどのような影響をもたらしてきたのか、また今後いかなる未来が広がっているのかという点について学ぶ。そしてこれらの活動を通じて、我々が今後これらをどのように活用し、自らの体育・スポーツキャリアに活用していく

【シンポジスト】



角田 憲治 (筑波大学,体育系,准教授)

熊本県山鹿市出身。東京学芸大学を卒業後、筑波大学大学院にて修士・博士号（体育学・体育科学）を取得。明治安田厚生事業団,体力医学研究所,研究員、山口県立大学,社会福祉学部,准教授を務めた後、本年10月より本学に着任。専門は体育測定評価学。



村澤 雄平 (関彰商事株式会社,総合企画部,スポーツアナリティクス事業課)

福島県耶麻郡猪苗代町出身。中学時代は部活動で野球、クラブで柔道、特設陸上競技部で砲丸投げに取り組む。高校からは陸上に専念し、やり投げを開始。数度全国大会で入賞し、筑波大学入学後も活躍。2019年に卒業し、関彰商事株式会社へ入社。現在もセキショウグループアスリートとして全国で活躍中。(主な戦績：<https://www.sekisho.co.jp/athlete/archives/player/murasawa>)



加藤 亮介 (筑波大学,体育系,特任助教)

千葉県市川高校出身。2017年に筑波大学理工学群工学システム学類に入学。体育会ハンドボール部にて競技を続けながら、卒業論文では「機械学習による統計量を用いたチーム分析」について研究。修士課程より体育学学位Pにて研究、競技指導を続け、本年5月より体育系特任助教に着任。専門はハンドボールコーチング論。

第2回 「スポーツで未来をデザインするー多様なキャリアの可能性ー」

日 時 : 2025年1月29日 12:15 - 15:00

場 所 : 大学会館・ホール

シンポジスト : 三津家 貴也氏 (体育専門学群・OB)

高 橋 知志氏 (体育専門学群・OB)

概 要

本シンポジウムは、スポーツのもつ社会や個人に対する深い価値「カチ」について触れながら、今後のキャリア選択について考えることを目的とする。

近年の「多様な働き方」を推奨する社会背景と共に、スポーツを専門とする人々の働き方も変化し始めている。従来のスポーツ由来の人々の働き口は、〈アスリート〉〈コーチ業〉〈教員〉であった。一方で、それとは異なる新たな働き方については、未だ我々の耳にはあまり届いていない。そのため、本シンポジウムでは、新たな働き方を実践している体育専門学群のOBの話を通じて、今後のキャリア形成について考えていこうと思う。

具体的に、スポーツの専門性が他の業界でどのように応用され、キャリアとして結びつかを探っていく。また、スポーツ由来の人材がどのような非伝統的なキャリアパスを築いているか、二人のOB(シンポジスト)の実際の話を通じて学んでいく。最後に、スポーツを通じて得られるスキル・知識が、今後の社会でどのように活用されるのかを深く掘り下げ、未来のキャリア形成における新たな可能性を提示する。

【シンポジスト】



三津家 貴也 (体育専門学群・OB)

熊本県玉名高校で陸上競技を始め、中距離走の800mでインターハイ6位。その後、筑波大学体育専門学群および大学院人間総合科学研究科体育学専攻でランニングに関する研究を行い、学生個人選手権1500mで6位を記録。学術論文を3本投稿し(国内誌1本、国際誌2本)、国際学会にも発表している。

現在はRUNNING SCIENCE LABでランニングコーチとして活動する傍ら、陸上競技選手としても活躍。日本選手権800mに出場。インフルエンサーとして、SNS総フォロワー100万人を超える、TikTokアワード2022では「Sports Creator of the Year」を受賞。また、ランニングアドバイザーやモデル、非常勤講師、多方面での活動を行っている。



高橋 知志 (体育専門学群・OB)

筑波大学体育専門学群、大学院人間総合科学体育学学院プログラムを卒業。現役の水球選手として活躍する傍ら、スポーツ観戦をテーマにしたコンテンツで注目を集め、日本国内だけでなく、ドイツのプロサッカー、オリンピック、MLBなどからも招待され、世界を駆け巡っている。

SNSコンサルタントとしても活動し、企業40社以上、個人累計100名以上を支援。TikTok Creator Academyの講師も務め、TikTok活用の専門家としても高い評価を得ている。

さらに、TikTokアワード2024では「Sports Creator of the Year」にノミネートされ、影響力を拡大中。

第3回 「『人馬共栄』—「絆」を深める馬術競技の舞台裏—」

日 時 : 2025年2月5日 12:15 - 15:00

場 所 : **5C 216 教室**

シンポジスト : 戸本 一真 氏 (JRA 日本中央競馬会, 馬術選手)

大林 太郎 氏 (筑波大学, 体育系助教)

松井 崇 氏 (筑波大学, 体育系助教)

概 要

2024年のパリ五輪において、日本は馬術競技で92年ぶりのメダル獲得という快挙を成し遂げた。「初老ジャパン」という愛称でも知られる彼らの躍進をきっかけに、日本では今、馬術に注目が集まり始めている。

一方で、なぜ、スポーツという場に「馬」がいるのだろうか？/選手はどのように馬と共に競技に望んでいるのだろうか？と、馬術や乗馬にあまり馴染がない我々にとっては、不思議に感じられることが沢山あるだろう。これらの疑問に対し、本シンポジウムでは、〈トップで活躍する馬術選手の活動〉〈人と馬の歴史的な歩み〉〈科学の視点からみた人と馬のコミュニケーション方法〉の3つの角度からアプローチする。

馬術界では「人馬一体」という言葉がある。この言葉の意味は、「乗馬において乗り手(騎手)と馬が一つになったかのように、なだらかで巧みな連携が行われること」である。すなわち、人と馬の間にはかなり高度なコミュニケーションが行われていると言える。さらに、これらのコミュニケーションは、他のスポーツ場面での人間同士のコミュニケーションにおいても同様のことが起きていることがわかってきた。

本回は、このように馬術の話を中心としながら、体育・スポーツに関わる様々なことに派生していく。そのため、学群生たちには、体育・スポーツ科学という専門分野の裾野の広さを実感してもらいたいと思う。

【シンポジスト】



戸本 一真 (JRA, パリ五輪メダリスト)

岐阜県本巣市出身。中学校卒業後に本格的に馬術競技を開始。学生時代は強豪の明治大学馬術部で全日本タイトルを獲得。2006年、日本中央競馬会（JRA）に就職。2011年から本格的に競技に復帰し、2016年には東京五輪出場を目指して練習拠点をイギリスに移す。

その後、2018年の世界馬術選手権で団体4位入賞。2021年の東京五輪では個人で4位入賞。そして、2024年のパリ五輪において総合馬術の団体で銅メダルを獲得。



大林 太郎 (筑波大学, 体育系, 助教)

1988年愛知県出身。主な研究主題は〈日本体育史〉〈陸上競技史〉〈オリンピック史〉。NHK大河ドラマ「いだてん」の時代考証、『チョコちゃんに叱られる!』の解説などを担当。ドラマ「いだてん」の劇中にも密かに登場している。

学生時代の専門は十種競技で、現在は本学の陸上競技部でのコーチングにも携わっている。



松井 崇 (筑波大学, 体育系, 助教)

1984年、筑波大学附属病院にて出生。父の影響で柔道を嗜み、2002年には神奈川県桐蔭学園高校でインターハイ準優勝。2005年、筑波大学でマカオ国際大会優勝。研究テーマは、〈運動生化学〉〈スポーツ脳科学〉〈eスポーツ科学〉。

噂によると、今回のシンポジウムに向けて松井先生の研究室には数か月前から馬の専門書が増えているらしい。

第4回 「ハイパフォーマンスを生み出す身体のふしぎ」

日 時 : 2025年2月12日 12:15 - 15:00

場 所 : 1H 201 教室

シンポジスト : 藤井直人氏
(筑波大学体育系 准教授)
下山寛之氏
(筑波大学体育系 助教)
狩野豊氏
(電気通信大学 情報理工学研究科 教授)
佐渡夏紀氏
(筑波大学体育系 助教)

概 要

本シンポジウムでは、ハイパフォーマンス発揮のために重要である生理学、栄養学、バイオメカニクスに関する最新の研究とその応用について、それぞれの専門家に議論していただく。さらに、シンポジストの先生方には、事前に学群生から挙げられた日々の競技生活における悩みや疑問にお答えしていただくことで、ハイパフォーマンス発揮を目指す学生にとって有益な情報の提供を目指す。

また、シンポジストの先生方にはご自身の競技や研究キャリアについてもお話いただく。学群生にとってスポーツ科学研究に興味をもつきっかけとなるに違いない。

【シンポジスト】



藤井 直人（筑波大学, 体育系, 准教授）

筑波大学大学院 人間総合科学研究科 体育科学専攻 修了、博士（体育科学）。2024年より現職。専門競技は陸上。研究分野は運動生理学。

講演内容：試合が長時間にわたる場合のリカバリー戦略について、最近のカフェインの研究成果も踏まえ、生理学的に考えてみたい。



下山 寛之（筑波大学, 体育系, 助教）

福岡大学大学院 スポーツ健康科学研究科 修了、博士（スポーツ健康科学）。2019年より現職。専門競技はボクシング。研究分野は運動栄養学。

講演内容：ヒトのエネルギー代謝について、競技にダイレクトに関係する代謝調整から、ヒトが生きて行くために必要なエネルギー摂取について、運動栄養学の視点から考える。



狩野 豊（電気通信大学, 情報理工学研究科, 教授）

筑波大学大学院 体育科学研究科 体育科学専攻 修了、博士（体育科学）。2012年より現職。専門競技は陸上。研究分野は筋生理学。

講演内容：運動時の骨格筋組織内では様々な物質が細胞内、細胞間を移動して機能を調節している。筋力や持久力を決定する主役の物質とは何か？という課題に挑み、その物質の可視化を目指した研究を紹介する。



佐渡 夏紀（筑波大学, 体育系, 助教）

東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻 修了、博士（学術）。専門競技は陸上。2021年より現職。専門競技は陸上。研究分野はバイオメカニクス。

講演内容：物体の運動はメカニクスに則り、スポーツ技術も「力」に関わる説明が多い。しかし、力に関する主観と客観やそれらに基づく説明には乖離が生じる。当日はこの乖離を皆さんと議論したい。